



## 次節情報

第67回全日本大学サッカー選手権大会2回戦

12月15日(土) Kickoff 11:00

v s 北海道地区第1代表と九州地区第2代表の勝者

### アクセス

○《味の素フィールド西が丘》

TEL:03-3830-1850 (本連盟にご連絡下さい)

〒115-0056

東京都北区西が丘 3-15-1

- ・都営地下鉄三田線「本蓮沼」駅より徒歩10分
- ・JR「十条」駅より徒歩20分、または「赤羽駅西口」行バス乗車、「国立西が丘競技場」下車、徒歩3分
- ・JR「赤羽」駅西口より「池袋」行、「日大病院」行バス乗車、「国立西が丘競技場北門」下車、徒歩5分、または「トンネル経由 赤羽車庫」行、「王子駅」行乗車、「国立西が丘競技場」下車、徒歩3分

※一般のお客様、ならびにプレス用の駐車場のご用意はございません。必ず、公共交通機関にて会場においでください。また、近隣の方々へのご迷惑になるため、競技場周辺の商業施設等への無断駐車は、固く禁じさせていただきます。

編集・発行：早稲田大学ア式蹴球部

# 週刊 ア式

## OFFICIAL MATCHDAY LEAFLET

Waseda University Association Football Club

【Vol. 22】2018 年 11 月 25 日 発行

2018 年度 関東リーグ 第22節

# 早稲田大学 vs 法政大学

一年生以下で試合に臨み、前半の2ゴールを守り抜き勝利を掴んだ前節。迎える今節はU-21日本代表、上田擁する強豪法政大学相手に、四年生のみで試合に挑む。自らの「存在意義」を問い続けた四年間。そしてチャレンジしドライブし続けることの重要性を、身をもって感じたこの一年。勝利を手にすることはもちろん、見ている人に何を感じさせることができるのか。満員の聖地西が丘で、彼らはどんな輝きを放つのか。さあ舞台は整った。今こそ四年間の集大成を見せるとき。

## PICK UP PLAYER

圧倒的なスピードを武器に左サイドを駆け上がる、早稲田の攻撃的SB。積極果敢なオーバーラップから幾度となく好機を演出し、守備では対峙するアタッカーに仕事をさせない驚異の身体能力を誇る。迎える最終節、彼の活躍が勝利のカギを握る。

# 富田康平

DF 4年  
さいたま市立浦和高校



# Kōhei Tomita

## 夢

を追うサッカー少年は、早稲田大学ア式蹴球部の門を叩いた。

その門の中で折れかけた時もある。諦めかけた時もある。それでも少年は下を向かなかった。背中を押してくれる同期が、信じてくれる両親がいたから。そうして彼は一つずつ壁を乗り越えていく。そして4年後の今季、少年は念願の夢の扉をこじ開けた。暴走機関車、富田康平は次の物語へと駆け抜けていく。

## -----プロサッカー選手になるについて

小学校の時から夢見てきたし、これまでもずっとプロを目指してやってきた。でもプロは自分の夢であって、必ず成し

遂げられることというよりも、「叶ったらしいな」って思いながら18年間取り組んできた。正直諦めかけた時もあったし、「自分じゃ無理だろうな」って思う瞬間もちろんあった。だけど2年の主務決めで、自分のサッカーをする時間を割いてまでもチームのために仕事をする人を決めている時に、1年間怪我をしていた自分が、「それでもプロを目指したい」って言ったことに対して、「それなら後押しするしかないじゃないか」と背中を押してくれた同期達がいた。そこから本気でプロを目指そうと思ったし、その結果として（運とかもちろんあったと思うけど）チャンスを掴み取ることができて素直に嬉しかった。これからはただやりたくてやってたサッカーからプロとしてお金を稼ぐサッカーに変わる責任があるだろうし、そこに対してどれだけ真摯に取り組めるのか、楽しく取り組んでいけるのかがすごく大事かなって思う。

## -----京都サンガF.C.を選んだ理由

今年に入って1番最初に声をかけてくれたクラブだったし、何より自分そのものをすごく高く評価してくれた。自分のプレーの特徴とか、人間性の部分をすごく評価してくださって、本当に「俺」という存在を必要としてくれているなと強く感じたから、京都でファーストキャリアを歩こうと決めた。

## -----4年生について

4年生全体を見たら本当に真面目な奴らだし、「これ」と決めたら本当に頑張る人たちだと強く思っている。サッカー面もそうけど、学年ミーティングでも言うことが「きついな」とか、言われたら「いやだな」ってことも、ちゃんと伝えるようにこの4年間で変わった。それは言えないということに対して、それではダメだと思って、真摯に取り組み続けた結果だと思う。だからすごく厳しいミーティングもするし、逆にすごく楽しいミーティングをする時もある。本当に真面目だけど、その中でみんな楽しんでる、ふざけたり。そういうことが好きだ



し、そういうことをできるような集団なのかなって感じだね。

## -----同じくプロが内定している、岡田、小島、相馬の存在とは

正直自分にとって大きすぎる存在。自分は「あいつは絶対プロになる」という選手じゃなかったから、ずっと3人を追いかけていたし、「こいつらに全力で食らいついていこう」と思ってきた。プロが内定してからその立場は変わらないと思う。あいつらは上手いし、プロになるべくしてなった選手。でもそういう追いかけて続けられる人がいたから、ここまでこれたと思う。ライバルではないけれど、「負けたくない、こいつらと同じくらい活躍したい」と思うような存在かな。

## -----優勝について

あの瞬間に優勝が決まるなんて思っていなかった。その前の試合で筑波と戦って、すぐく手堅くてなおかつ強いチームだと思っていたし、取りこぼすことはないだろうと思っていた。だから筑波がどうこうとか、優勝がどうこうというより

も、あの日の東京国際大学との試合に対して、優勝するための一歩じゃないけど、その勝利がゴールじゃなくて、あくまでも過程の一つだという気持ちで臨んでいたから、優勝が決まった瞬間はよくわからなかった。みんながワーッと喜んでいて、「あ、優勝したんだな」って。嬉しいけどあまり実感がなかった。でも秋葉とか学とか雄大とかが泣いて喜んでる姿を見ると、「本当に1年間やってきたんだな、一つ結果として現れたんだな」って思った瞬間はやっぱりすごい嬉しかったし、この代でここまでやってきたと思えた瞬間だったかな。

## -----4年間の振り返り

正直楽しいことよりもつらいことが多い4年間だった。高校までは言い方が悪いかもしれないけど、自分が好きなようにプレーしていたというか、自分ありきのサッカーだったし、すごく気持ちよくプレーさせてもらっていたんだなとここにきてすごく感じた。1年間怪我をしていたし、周りの選手が上手かったっていうのもあるけど、今まで自分がこのチー

ムを引っ張っていると思ったこともないし、必要とされている存在なのかをずっと考え続けてきた。そうなるにはどうすればいいんだろうともずっと考え続けてきたし、今も考え続けてるから、苦しいこととか辛いこととかいっぱいあったけど、それをやりきって最後は「ここで4年間やってきてよかったんだな」って思えるような終わり方ができたらいいなと思います。

## -----インカレについて一言

自分が大学に入ってから出た全国大会は今年の総理杯だけ。しかも自分はベンチスタートで逆転負けをしてしまっただけ、本当に何もしてないというか、チームのために何かできたかと言ったら何もできていない。インカレは大学の全国規模で日本一を獲れる場としても最後だし、自分たちの引退が決まる大会でもあるから、本当に後悔がないように、自分がやること、最後の最後で「こいつはやっぱ必要だった」と思わせられるようなプレーができたうえで優勝できたらいいなと思います。

# 筋

骨隆々たる鋼の肉体、常人離れした跳躍力。まさに外国人選手を彷彿とさせる彼の身体能力は、ア式の中でも一際目を引くものがある。しかしその能力を高く評価されながらも、スタンドから試合を見守る日々が続いていた。それでも彼は下を向かない。試行錯誤を繰り返して、与えられた役割を全うする毎日。そして迎える最終節、ついにチャンスを掴みとる。早稲田のフィジカルモンスター石神佑基が、聖地西が丘で大暴れする。

Yuki  
Ishigami

## -----ア式に入った経緯

まず大学を選ぶにあたって、保健体育科の教員免許をとれる大学、学部を選択して、そのうちの一つに早稲田大学のス

ポーツ科学部があったので受験しようと思いました。自分は高校サッカーでの最後の選手権で試合に出ていました。だけど県予選のベスト8の試合で骨折をしてしまっ、高校サッカーをやり切れないまま終わってしまいました。だからやっぱり大学でもまだサッカーが本気でやりたいくて、不完全燃焼じゃないけど、やりきれないところを残したくないと思ったからア式に入りました。

## -----4年生について

自分たちは1年生のころから「まとまりのある学年」と言われてきました。そこが一番の強みで、一人一人の仲がすごく良いし、まとまってやるべきことを本当にひたむきに取り組むことができる学年だと思っています。他の学年から見ても、それは見えないかもしれないけど、学年というまとまりになると、はしゃいでいたりとか、出るパワーはすごく大きいものだと思っています。

-----今季はアミノバイタルカップ等のトップチームの試合にも出場した一方で、Bチームで過ごす時間が多かった点について

前期は怪我をしていたから、怪我明けでBチームから必ずAチームに上がって試合に関わるということを目標にして、一つ一つステップを踏んでやってきました。だけど気持ちだけじゃだめだということ突き付けられた1年だったと思っています。そのあともAチームに上がって試合にも出させてもらって、結果も残せたけど、そこでそれを継続できませんでした。それでBチームで過ごすことになったから、もう一回自分を見つめ直す期間だと、気持ちだけじゃなくて試合に出るためにどうするかを見つめ直す期間であったと思います。だから悔しいとかそういう気持ちだけじゃなくて、なんで今ここににいるのかとか、どうすれば試合に出れるのかを考えてやっていました。

-----先日行われた4年生の早慶戦ではC Bとしての出場でしたが……

自分としては絶対にこのポジションをやりたいっていうこだわりは特にありません。CBでの出場機会を得るというか、そういう役割を自分に与えられたからこそ、その役割を全うしないといけない

いと思いました。CBというポジションを考えると、やっぱりチームの軸となるというか、チームを固めるという役割がある。俺は思っているから、それをあの早慶戦という舞台でどれだけ自分が出せるのかというところを、CBでの出場と決まっただけからは常に考えていました。

### -----優勝が決まったことについて

正直驚いたというのが感想です。筑波が勝つと思っていたから、あそこでまさか決まるとは思っていませんでした。正直に言うと、やっぱり優勝が決まるタイミングではピッチに立っていたかった。だから悔しさもあります。もちろんチームとして結果を残すことができたことは嬉しいけど、自分として結果を出すことを目標に今まで活動してきたから、それを達成できなかったのは悔いが残るところでもあります。

### -----4年間を振り返って

入部した当初はとにかく自分が試合に出たい、より上のチームで試合に絡んでいたという思いだけでプレーしていました。ピッチ内に関してはもちろん今も

そうだけど、それを本気でやり続けられた貴重な4年間だったと思います。でもみんなが言うように、この組織ではサッカーだけじゃなくていろいろな経験ができたし、いろいろな学びがあって、大学生活が本当に充実したものになったと思います。ア式に入っていなかったからこそ経験はできなかったし、最初は高校サッカーでやり切れなかったっていう悔しさで入ったけど、サッカー選手としてだけじゃなくて人としても大きくなれたと思います。人生において貴重な4年間でした。

### -----インカレへの思い

今年の目標はタイトル奪還。関東リーグを獲得できたけどやっぱりインカレというもう一つのタイトルが目の前にあるわけで、それを本気でチームとして奪いに行く。そしてそれを自分が掴みに行く、自分の手でその結果をもたらすというのを、残り1か月本気で取り組んでいきたいと思っています。

石神

### -----お互いの印象

康平はみんなから言われてるようにうるさいね。わちゃわちゃしてるのが合ってる(笑) でも普段はそういう感じだけど、いざやるってなるとスイッチが入って、自分のことを真剣にできる人だなんて思います。



## ともに歩んだ 7年間の終わりに 市立浦和対談

富田

いやあいこと言ってくれるね  
（笑）俺はね、7年目にもなる  
とそろそろ悪いところが見つか

ってくるんじゃないかって思う  
けど、一向に見つからない（笑）

みんなから市立浦和って仲悪い  
みたいにふざけて言われるけ  
ど、仲悪くなる要素が全く見つ

からない（笑）嫌なところがなさ  
過ぎるくらい良い奴だし、振ら  
れたら面白いことをできる引き

出しをもっているし、高校のこ  
ろは俺らサッカー部が、ガミ  
（石神のニックネーム）にふら

ないとやらなかったものを、こ  
のA式に来て、自分から振らせ  
ようとしてくる（笑）

石神

それはちょっとあるね（笑）

富田

もう出せるから振ってこいよみ  
たいなスタンスになりつつあ  
る。

石神

俺もここに来て待ってるだけじ  
ゃだめだなって感じるから、自  
分から出すってことは、1年生  
の時から意識はしていた。

富田

ネタとかやっちゃうもんね。ハ  
ライチを真似してウライチみた  
いな（笑）

石神

-----  
**お互いの存在とは**

本音だと高校のころからずっと  
こいつより結果を出すとか、そ  
ういうことを思っていたし、そ  
れは大学に入ってから変わら  
なかった。実際差はついたし、  
プレーするサイドは左右で違う  
けど、常に意識していたな。結  
果を出すとか、自分が目立つっ  
ていう点では、チームメートで  
ありながらもライバルっていう  
意識は持っていたかな。

富田

言ってしまうえば腐れ縁。俺も高  
校の頃は似たようなプレーヤー  
だった。足が速くて身体能力が  
あって、それで結果を残す、っ  
ていう選手だったから、やっぱ  
り一番に意識していたし、そい  
つが同じような経緯で同じよう  
に早稲田に入るとなると、これ  
はずっと続くんだろうなって思  
っていた。そうすると必然的に

石神

序列でもガミが今どこにいるの  
か、AチームなのかBチームな  
のかってガミを意識するし、そ  
れだけで自分も頑張らないとな  
って思っていた。でも俺が怪我  
人の時もそうだし、普通にプレ  
ーしていてもガミがAにいたら  
嬉しいし、試合に出たら嬉しい  
し、なんかそういう本当にいい  
意味でのライバルというか、お  
互いにいい意味で刺激し合える  
関係なのかなって思う。

常に意識はしていたから、ここ  
にきて康平がずっと試合に出続  
けていることに対して俺も個人  
的に出たいって想いもある。二  
人で出てみたいという想いもあ  
るから、正直俺が結果残せてい  
ないというか、そこまで行けて  
ないことが申し訳ないなって気  
持ちもある。だけど、一緒に試  
合に出たらこいつはここ来るだ  
ろうなとか感じるから、一緒に  
出たらライバル意識を持ちつつ



も二人で息の合ったプレーはできるかなって感覚はある。

富田 ホットラインはあるよな。やってくれるんだろうとか、ここに出してくれるんだろうなっていうのはパスを出す方でも受ける方でもわかる。あと唯一俺のことを康平って言うってくれる存在だよな(笑)

石神 それについては1年生のころ話したよね(笑) みんなが「とみ」って呼ぶから俺がちょっと気にしちゃって、一人だけ康平って呼ぶより合わせた方がいいんじゃないかって思ったけど、そのままでってなったからそこは変えてない。

富田 ガミは高校からずっとガミだもんね。

石神 高校でみんながガミってつけてくれてすごいしっくりきたかな

### -----高校時代のエピソード

石神 くだらないことと言えばじゃんけんかな。じゃんけんは相当やったね(笑)

富田 試合の荷物運びの時に下級生が

俺ら4人しかいなくて、きつい荷物の中でどれだけ楽な荷物を取っていきかっていうその駆け引きだよな。

石神 その差もでかいときあったよね  
富田 そうそう、もう心理戦だよな(笑)  
運というより技術(笑)

石神 みんなのじゃんけんのイメージとは違う俺らのじゃんけんがあったの。

富田 そう、もう一種の格闘技(笑)  
石神 一回目から始まるからね(笑)

富田 こいつはなにを出すから、自分はこう出すとこうなるからこうしようみたいな(笑)

石神 そう、そこまで言ってた(笑)  
富田 結構わかるんだよね、こいつはこれを出すっていうのが。

石神 もうやりこんだからもうタイミングがわかったちゃうんだよね。  
富田 それはめっちゃ面白かったね、くだらないけど(笑)

### -----高校時代の思い出

富田 こいつすげえなって思ったのは、ガミが選手権の前半で鎖骨を折った時(笑) もう全然笑い事じゃないんだけどよくわからない倒れ方をして鎖骨を折ったの。それでめっちゃ痛そうにしてたの。

石神 めっちゃ痛いよあれ。

富田 外からガミを見ていたけど、これに思っただけから大丈夫だろうと思っただけから大丈夫だろうと思っただけ、監督に大丈夫かって聞かれて大丈夫ですって答えたから。

石神 あれ「大丈夫ですか」って聞かれたんじゃないかって、「いけんだろ？」って言われたの(笑)

「じゃあいきます」って言うしかないじゃん(笑)

富田 それでガミは後半全部出たの。右腕全然動かないまま(笑)

石神 本当に動かなかった。めっちゃ痛い、歩いてるだけでも痛い。

富田

それを後から聞いて「こいつマジですげえな」って思った(笑) 四十分あのまま戦える？ っていうね(笑) 超人だよ、セツトプレーとか普通に中に入ってるし接触とかもあるのに(笑)

石神

康平の思い出はボイパだね。高校ではまり始めたらしくて、極めてるときは授業中もぶつぶつぶつぶ言ってるの(笑) 「聞こえてるよ聞こえてるよ」みたいな時もあったね。ユーチューブを見まくってるとか言ってたし。

それで、康平は高3の最後の三送会で全校生徒の前で4人くらいで一緒にボイパをやって、アカペラで歌を披露して。あれはすごかったね。かっこつけてよかったような。

富田

ただただかっこつけにステージに上がったっていうね(笑)

石神

あれは良かったね、しかも本格的に上手いからなんとも言えなかった。ただ練習してるところはおかしかったね(笑)

富田

練習している姿はめっちゃ恥ずかしいからね(笑)

### -----来季のチームについて

富田

自分たちの代に比べてどの代もサッカー自体は上手。技術はあるし能力も高い選手多いと思う。だからそれを発揮できる人

できない人と分かれるんじゃないかなって思う。上にいる何人かが好きなようにやっていけばいいとか、逆に上にいる奴らだけが責任を背負って下にいる奴らが好きなようにやるとかじゃなくて、全員が上手く自分たちの良さを、本来の能力以上のものを出せる環境づくりとか雰囲気づくりが上手くできればすごく強いチームになると思う。似ているけど、いかに全体で大きくまとまれるかがポイントだと思う。上の人が試合で活躍できるのもうわかるけど、下にいる人が上を狙いに行くとか、

逆に上の人が下を巻き込むと

か、そういうまとまりが大きくないといけない。チームとしての一体感は見えないものだけど、それは本当に大事なものだと思う。俺らはそれを大事にして取り組んできたし、こうして結果が出せたことを考えると、本当にそこは大事なのかなって思うね。だから今試合に出ている人たちがより頑張るっていうのが大事なのかなって思う。

### -----監督の変更によるチームの変化

富田

いろいろ自由になったな。雰囲気とかオーブンな組織になったなっていうのはすごく思う。やっぱり古賀さんの時に教えてもらったことはすごく大事なことなの。人としてこれから生きていく、社会に出ていく前に学んでおかなければいけないことをすごく学ばせてもらった。だけどそれが閉塞的だったというか、内側だけでやっていたせいで自

分たちから外に発信することもしないので外から内に取り込むこともなかった。だから自分たちの中だけで完結させてしまっていたのはあったから、それに比べて今年はその外と内をつなぐ橋ができて、情報発信もできるし、周りからも吸収できるという良さが出てきたのかなとは感じるよね。

石神

スタッフとの関わりがこんなに大事なんだって本当に思えたかな。古賀さんの時だと無いわけじゃないけど、つながりが強くない感じがあったから。でも今は、行き過ぎちゃうときもあるけど、本当に選手とスタッフの関係が良い具合に緩いからそこは良いところかな。

富田

勝手に思い込んでいたかもね。古賀さんにはちよつと絡みにくいみたいな(笑)

石神

たしかにそれはある(笑)

富田

真面目過ぎてどう話していいかわからないみたいな(笑)

石神

一部の人たちは結構ぐいぐい行っていたけどね(笑)

富田

そうだね。でもどう接していいかわからなかった。本当に面白い人なのかなってね(笑)

石神

俺らは行ききれなかったね(笑)

富田

そうだね。だから今年が絡みやすいのかもしれないね。

-----リーグ最終戦は4年生のみで戦うことになりました。それについて……

石神

本当に貴重な機会で、僕たちにはとても有り難いこと。こんなことをやってくれる監督とか大卒とかチームって無いと思う。もちろん外池さんも記念では出さないと言っていて、それはその通りだけど、いざこういうチャンスを与えるとか、こういう形をとってくれるのは本当に俺らにとって貴重なことだと思う。だからこそ、この試合に向けて一日一日どうするか、一人一人どうするかを絶対本気で考えるし、残り少ない中でもこの

富田

1週間がすごい貴重だなんて思う。

間違えなく簡単なことではない。今まで出てきた人たち、後輩とかを退けて4年生だけで最終節に出るのはそんな簡単なことじゃない。俺自身もやっぱり記念では全く出たくない。記念で4年生を全員出すのは嫌。でも外池さんがしっかりと見極めて、俺らを使う自信を持てるようになったら使ってくれると聞いて、本当にこれ以上ないチャンスだと思うし、「掴み取ってなんぼでしょ」って思っている。本当に4年生はみんな燃えていると思う。いろいろな意味ですごく難しいことだけど、本当に貴重なこの滅多にないチャンスを掴めなかったら本当に後悔すると思う。俺だけじゃできないし、俺とガミだけじゃできないこと。みんながそれぞれ力を最大限出して掴み取りにできないとできないこと。こいつら

出しても大丈夫だなんて思わせるようなプレーをして、それで全員で出る。

「――7年間一緒にプレーしてきたと思いますが、それも残り一か月となりました。それについてはどのように感じていますか？」

石神 どうだろうね。でも俺はそこを

あんまり意識し過ぎていない。

7年間こうやって一緒にやってきたから、とかじゃなくて、最後をどう迎えてどう終わるかを見ている。だからこれまでの7年間じゃなくてラストの1か月が本当に大事だと思う。

富田 そうだね。この先もう一緒にプレーできないから悲しいみたいな気持ちはあるにないんだよね。

石神 そうだね。

富田 それよりも最後に良い感じで終わりたいよね。

石神 そう、そこなんだよね。

富田 例えお互いにサッカーをやってもなくても、形は違うにしてもお

互いに刺激し合えると思う。俺がプロになってサッカーしていても、ガミが教師になって、サッカー部の監督とかになっていったとしても、お互いに「あいつ頑張ってるな」とか「すごいな」とか刺激は与えられると思う。

石神 その通りだね。

富田 だからもうサッカーが一緒にできないからとかそういう感じではないかな。

石神 そこじゃないね。

富田 だから一緒にサッカーができる期間はあと1か月だから、こういうふうに行っているように、みたいな感じだね。

石神 そう。本当にそう。

富田 腐れ縁なんで(笑)

「――7年間の締め……」

富田 そろそろ締めますか。

石神 始めましょうウライチを

富田 一人だけビーフ

石神 ちょ、みんなフィッシュなら言うてよー！俺だけビーフじゃん

富田 筆箱にチーズ

石神 誰詰めたん？俺の筆箱に誰チーズ詰めたん！？

富田 横綱がタップ

石神 あのお、下の階の者なんですけどお、タップするのやめてもらえますかあ？迷惑なんですう。

富田 笹かまのブーム

石神 いや対談関係なくなっちゃったよ！いい加減にしろ！どうもありがとうがとうございました！

今回の週刊ア式を持ちまして、4年生全員の特集が終わりました。選手一人ひとりの個性や秘めた思いを少しでも皆様と共有することができたのなら幸いです。彼らに残された時間は僅かしかありません。彼らのア式での時間に、そして新たに始まる彼らのストーリーにご期待ください。